

第7回会津若松市総合計画審議会 議事録

日 時 令和8年7月17日（金） 午後1時30分～午後3時30分
会 場 会津若松市役所本庁舎1階 市民ホール・正庁
出席者 会津若松市総合計画審議会委員8名（16名のうち8名欠席）
事務局（企画政策部副部長、企画政策部副部長兼企画調整課長、企画調整課員3名）
総合計画策定支援業務受託事業者（株式会社 NTT データ経営研究所2名）
内 容 以下のとおり

1. 開会

2. 会長あいさつ

発言者	内容
司会（企画調整課長）	会長よりごあいさつを頂戴いたします。
○会長	夏も本番になってまいりました。本日の総合計画審議会は総まとめの回かと思います。その間、皆さまにはお忙しいなか足を運んでいただいて色々な議論を交わしてまいりました。本日は最終的な確認をしていただく回になると考えております。是非とも皆さまそれぞれの立場から忌憚のないご意見をいただければと思います。 前回の会議で非常に印象的だったのは、この総合計画を次世代、次々世代、例えば中学生や子ども達にも是非見てもらい、これからの会津若松を一緒に作っていけるワークショップのような機会が必要ではないだろうかといった、現役世代が伝えていく役割の必要性に関する話がありました。避けることのできない人口減少のトレンドにおいて、会津若松を愛し、会津若松に定住したいと思ってくれる次世代、次々世代をどうやって育てていくか、どうやって共に関わっていただくかを議論するための一つのきっかけとして総合計画が役立つといいのかなと思っております。次の世代に繋ぐバトンとして、この総合計画をどのように伝えるかという観点からのご意見をいただければと思います。

3. 議事

- (1)「第8次総合計画 基本構想及び基本計画（素案）」に係る市民意見公募（パブリック・コメント）について
- (2)市長への答申案の作成に向けた意見聴取
- (3)その他

発言者	質疑内容等
司会（企画調整課長）	ありがとうございました。 議事に入ります前に、本日の出席者数について報告いたします。 委員 16 名中 8 名が出席されておりますので、総合計画審議会条例第 6 条第 2 項の規定に基づき、本日の会議は成立しておりますことをご報告いたします。 なお、本日も、総合計画の策定の支援を行っていただいている株式会社 NTT データ経営研究所からも出席をいただいております。 それではこれより、議事に入ります。総合計画審議会条例第 6 条第 1 項により、「会長が議長となる」と規定されておりますので、会長よろしく願いいたします。
○会長	しばらくの間、議長を務めさせていただきます。委員の皆様には、円滑な議事進行にご協力をお願いいたします。 それでは、次第に従いまして議事を進めてまいります。 はじめに、(1)『第8次総合計画 基本構想及び基本計画（素案）』に係る市民意見公募について、事務局の説明をお願いいたします。 <u>(1)「第8次総合計画 基本構想及び基本計画(素案)」に係る市民意見公募(パブリック・コメント)について</u>
●事務局	（資料に基づき内容を説明）
○会長	ありがとうございました。 事務局から説明をいただきましたが、何かご質問がありましたらお願いいたします。 ないようですので次の議事に進ませていただきます。

	<u>(2)市長への答申案の作成に向けた意見聴取</u>
○会長	来月、市長に対して「第8次総合計画 基本構想及び基本計画（素案）」に関する点を答申書として提出する予定となっており、次回7月29日の第8回総合計画審議会で答申書の審議を行います。 本日は次回の第8回総合計画審議会で審議いただく答申書のたたき台を作ること、たたき台を作るために委員の皆さんから答申書に掲載すべき内容に関する意見をいただきたいと思います。 まず、この答申書とはどのようなものなのか、それから本日の会議の進め方について事務局から説明いただきたいと思います。
●事務局	（資料に基づき内容を説明）
○会長	ありがとうございました。これから答申案の作成に向けて皆さまから具体的な意見をいただきたいと思います。事務局から説明について質問がありましたらよろしくお願いいたします。
○委員	本日の会議資料P.19の「これまでの審議会における意見等のまとめ」の部分についてですが、「会津は人口減少への耐性を持っていないため、人口減少を視野に入れて考えていくべきだ」との発言内容になっていますが、実際は「会津は人口減少への耐性を持った制度設計になっていない」という意味でしたのでお伝えしておきます。
○会長	発言の趣旨と違うとのことですので、事務局は修正をお願いいたします。
○会長	これから意見していただくのは、答申書に記載する付帯意見の部分であり、総合計画審議会の委員から特に強調された意見をまとめたいと考えております。事務局から説明があったとおり、「①素案についての評価、肯定的に評価できる点」と「②計画推進にあたり、市に対し、配慮を求める視点や考え方など」の2つの観点から、お一人ずつご発言いただければと思います。ご発言については名簿順に進めてまいります。

○委員	まちづくりについて、会議などの話し合いも大事ですが、行動することが必須だと思います。人口減少や様々な要因で、年毎に退化する会津若松市街地をいつの間にか上空から見下ろすと、鶴ヶ城・市役所・公共施設・タワーマンション・大型ショッピング店・工場などが残り、空き地が目立ち、まちなかの光りや賑わいも感じなく寂れて衰退するばかりのように感じています。 この現実と危機感の対策は必須であり、特に市民、大人たちは「ひとごと」ではなく考えねばと思います。 城下町特有の習わしや、しきたりを踏まえたまちづくりを見つめ直し、市民の暮らしが良くなれば、「わざわざ行きたい会津若松、何回も行きたい会津若松」になるのではと思います。
○会長	中心市街の空洞化とまちなかの衰退について危機感をもち、市民・大人がひとごとではなく、自分ごととして考える必要があるとの意見ということでよろしいでしょうか。 「城下町特有の習わしやしきたりを踏まえたまちづくりを見つめ直し」とは具体的にどのようなことでしょうか。
○委員	例えば昔は鶴ヶ城まつりなどの盛大なイベントが実施されておりました。いまはそのようなイベントや取組も不足しており、若い人たちが城下町である会津若松ならではの経験もできていない、自分たちで何かをやろうという行動もできていないと感じています。
○会長	次世代へのメッセージも含まれているように感じました。こちらについて事務局いかがでしょうか。
●事務局	行動することが大事だという受け止めをいたしました。また、鶴ヶ城に限らず中心市街地の活性化に資する若者が参加するイベント、若者自らが参加する仕組みが必要とのご意見と理解いたしました。
○委員	子ども教育、とりわけ学校における社会教育についても重要だと思います。学校の草むしりなどを保護者が行っている光景を見て、子どもたちの教育のためにも子どもたち自らで行うような機会も必要だと思います。

○会長	学校教育の現場や子どもたち家庭の状況も昔とは変化していることは念頭に置く必要があると思います。また、子どもたちの数も減少しているなかで教育現場と地域との交流・コミュニケーションの機会、世代間交流のような機会をどのように創出するかが課題と受け止めました。
○委員	「第8次総合計画 基本構想及び基本計画（素案）」のP19に記載されているとおり、「まちのコンセプト」を実現するために位置づけられた「まちづくりアクション」があり、それに紐づく形で政策が検討されている点は評価できると感じました。 一方でこの総合計画が10年後、20年後、30年後にその時の現状から今まで何をやってきたのか遡って評価・学習できる仕組みが必要だと思います。取り組んできたけどだめだったのか、取り組む必要があったのか、後世の人たちが評価できるシステムを残すことが重要だと思います。 また、現在は人口減少に見合った、耐性のある制度設計になっているかという点が非常に重要だと思います。そのような制度設計の構築に向けた考え方がこの総合計画から汲み取ることができればよいのではないかと考えます。 そのなかでも先ほども意見された世代間交流はとても重要だと感じています。長生きすることは重要ですが、高齢者が健康で過ごせること、健康寿命を延ばすための取組、介護を予防する取組が重要であり、それらが財政面における歳出を抑制することにも繋がります。高齢者等のボランティアへの協力を現役世代、若者に今後お願いしていくために「お互い様」という互惠的な考え方を浸透させる必要だと思います。個人的には造語で「多世代間の互惠的利他行動」と呼んでいますが、若者もいずれ年をとって誰かの支えが必要になる時がくる、下の世代に頼らなければならない時がくるということを踏まえて皆が「お互い様」という共通的な意識を持つことが会津若松市、地方都市には必要なことだと考えます。 地域コミュニティを合理化して葬ってきたものを蘇らせるという考え方となります。
○会長	多世代交流と「お互い様」という考えに基づく「互惠的利他行動」というご意見でしたが地方だからこそできる大事な考え方であり、地方の強み、地方で暮らすことの魅力にもなると感じました。

○委員	さきほど意見された会津若松ならではの昔からのノウハウを融合させることで、現代的なお互い様の関係をどうやって構築するかというのが重要だと感じました。 私も基本計画における「まちのコンセプト」と「まちづくりアクション」の位置づけ、さらには重要目標達成指標として「Well-being 指標（地域幸福度指標）」によって市民にも評価を見える化している点が評価できると思います。 子育て世代、若者・女性に受け入れられるまちを打ち出している点も評価できると思います。 一方でさらなる改善、強化が必要な点として1つは市の取組を市民にわかりやすく伝えるための工夫が必要だと思います。現在は市が様々な取組を行っているにも関わらず、何に取り組んでいるのか見えない、だから評価もできないという状況にあると思います。また、若者はインターネット中心の生活スタイルであることから、様々な情報を公開する際のホームページの見やすさなどは工夫が必要と考えます。市は様々なことに取り組んでいただいている、今回の審議会の資料からもわかるように市民の声を聞いてくださっているといます。もっと「市民の皆さんの声を聞いてこんなことに取り組みます・取り組みました」ということを伝えていくことが重要であり、「会津若松市は市民の声を聞いてくれる」という声が市民全体に広がることを期待します。 2つ目に子どもたちの居場所や遊び場についても工夫が必要だと思います。私が他市から会津若松市に戻ってきた際に子どもを遊ばせる公園に遊具などが以前住んでいたまちと比較して充実していませんでした。子ども会の会長に尋ねたら「予算がないから寄付で遊具を設置してもらわないといけない」とおっしゃっていたのを聞いたことで、市の実態を見てみたいと思いこの総合計画審議会の委員に応募しました。 県内の他自治体では子どもたちが遊びながら学べる施設などが充実しているところもあります。会津若松市に置き換えると遊びながら歴史や文化を学べるような施設があってもよいと感じています。会津若松市には様々な公共施設がありますが、観光向けの視点と子どもや市民のシビックプライドを醸成することができるような施設は切り分けて考えることが必要だと思います。日常的に子どもと利用するという観点からも、市内の子どもは無料で遊べるような仕組
------------	--

	みなども有用と考えます。市民のなかでも「予算がないから意見しても無駄」という空気が漂っていることを危惧しており、このままでは若者は流出するばかりで人口減少は緩やかどころか加速するのではないかと考えています。 できないこともあるとは思いますが、市民の理解を得るためにも市民の意見に対しては単調な回答ではなく、「市民の意見からこんなことに取り組んでみました」などと言い方を変えるだけで受け取り方は大きく変わると思います。もっと市と市民が手を取り合ったまちづくりを実現できると思います。
●事務局	ありがとうございました。ちなみどちらの公園でしょうか。
○委員	扇町です。
●事務局	扇町は土地区画整理事業における区域の途中で手を付けられなかった経緯があります。計画を策定して順次整備を行っておりますのでしばらくお待ちいただけますようお願いいたします。
○会長	ありがとうございました。やはりデータを市民に提供するなど、市民にわかりやすく伝える情報提供の仕組みは必要だと思いました。また、市民との対話の質を向上させるコミュニケーションの工夫も期待されると思います。行政には様々は意見が寄せられるため、どうしても守りに入ってしまう傾向がありますが、今後は市と市民が対等な立場から話しあうことができる文化の醸成が必要だと受け止めました。
○委員	この総合計画審議会を通じて様々な年代の方と話し合いをできる機会をいただけたことに感謝しております。毎回意見を取りまとめ資料を作成いただいた市の方々の会議運営にも感謝いたします。 まず、基本構想については市民から見ても分かりやすい点が評価できると思います。また、基本構想の冒頭で「市民を巻き込んでみんなで創ってく」ということが示されている点もよかったと思います。 そして、まちづくりは長いスパンで取り組んでいく必要がありますが、政策１１で「都市づくり・景観形成と鶴ヶ城周辺エリアデザインの推進」が明記して掲げられた点が私は最も評価できると思い

	ます。島根県松江市では 20 年かけて松江城周辺エリアを整備したのですが、ようやく松江城のお堀を屋形船が運行されるなど徐々に整備が進んでいます。長い年月を要しても覚悟を決めて取り組んでいくのがまちづくりだと思います。会津若松市においては、七日町～神明通り～鶴ヶ城～東山までの素晴らしいルートをお金が稼ぐことができるルートにする覚悟ができるのかをしっかりと考えていく必要があると考えます。そして、これまで意見が出たように市民にわかりやすく見える化された情報を提供していくことが大事だと感じています。 思いつきではありますが、市民が参画できるまちづくりの一環として、例えば県立病院跡地に建設される施設の一面にでもこれからのまちづくりを遊びながら見える化できるようなものがあったもよいと思います。まちづくりがどのように進んでいくのかを夢と現実の両側面から見える化すると市民自らが自分たちのまちをつくっていかうという機運が醸成されると思います。このような施設は特定の世代だけでなく、あらゆる世代が滞留できる場所にもなるので世代間交流を通じたまちづくりも実現できるのではないかと考えます。 基本構想に明記されている「ひとづくりこそ地域発展の礎」の信念のとおり教育には是非とも力を入れていただきたいと思います。 それから、人口減少が進むなかでも「ゆりかごから墓場まで」、ひとりも取り残さない覚悟を計画のなかに取り入れることも重要だと感じました。 最後に、若者のしごとや産業振興の観点から伝統産業にも力を入れていただきたいと思います。私のまわりの若者のなかには蒔絵師や筆を作っているような伝統産業に従事している方もいる。伝統産業を職業にできる環境は多くはないので、そのような受け皿を整備してあげることもよいと思います。
○会長	伝統産業に魅力を感じる若者も増えているように感じますので会津若松市で夢を叶えられる発信は必要と感じました。 また、ゆりかごから墓場までの考え方は「お互い様」に繋がるものだと思いますし、多世代交流の必要性も意見いただきました。
○委員	この総合計画審議会に参加したことで様々な課題があるということも把握できました。

	まず、まちづくりアクションを9つのテーマで整理したわけですが、課題が重複していると気づいた点が良かったです。例えば空き家問題については単純に景観の問題だけでなく、防犯や災害などにも関係するなど1つのテーマだけを解決しようとするのではなくて、様々な政策をそれぞれのテーマに当てはめた仕組みは評価できると感じました。 一方で、これまで意見されてきた市民への情報の公開や告知の仕方についてはさらなる深化と市民との連携の強化が必要と感じた。複数の情報ツールが連携されていない点や、多様な情報発信媒体の活用の工夫、デジタル弱者などへの配慮などは改善が必要だと感じています。
○会長	政策連携という新しいフレームを導入できたことの評価と市民への情報提供のあり方の改善というご意見と受け止めました。
○委員	基本構想及び基本計画においては、人口減少を受け止めて、現実的な計画を策定してきた点が評価できると感じました。人口減少の受け止めについては厳しめの数字であり、委員の皆さんからは「諦めた計画になっていないか」というご意見もありましたが、現実的な数字をベースに将来のまちづくりをきちんと議論しながら計画を作ることができている点は良かったと思いました。 そのうえで今後お願いしたい点としては、既に意見があったように理想形ではなく現実にあった制度設計を行っていく必要がありますし、様々な手法を用いて計画を市民に広く周知して届けられるようにしていただきたいと感じました。 コンパクトシティという言葉を聞く前から、会津若松市は生活するための機能が集約されていて生活しやすいという印象を持っています。そのような市の良いところなども情報発信の方法を工夫しながら広めていくと良いと思います。 また、行財政運営の観点からは人口減少によって今後は自治体機能が維持できない時代がやってくる可能性が高まります。会津若松市はスマートシティの取組など他自治体と比較して先進的な取組ができているまちなので是非とも今後も積極的に続けながら、アピールもしていただきたいと思います。
○会長	人口減少を正面から受け止め、人が減っても市民の幸せを実現す

○副会長	るという先進的な視点を取り入れた計画になっている点を評価いただいたと受け止めました。このような先進的な取組を外部にも共有し、県内自治体をリードする形で進められるとよいと感じました。 先日公表された市街地の路線価において、会津若松市は県内の主要都市なかで唯一下落している状況です。路線価は地域経済のバロメーターの一つでもあるため先行きとしては厳しい状況だと思います。様々な意見があったなかで私が一番重要だと思うのは財政運営だと思います。人口が減れば税収も減るので、計画において財政運営の面はもう少し考えていただく必要があると感じています。 以前の議論で関係人口が重要という話があったと思います。定住人口が増えない状況において、何をもって賑わいを創出し、経済を回していくかと考えると交流人口しかないと思います。ただし交流人口は既に地域間における競争が激しさを増している状況です。 そこで会津若松市は交流人口を増加させるために何を訴求し、プロモーションしていくかを考えたときに、やはり歴史と文化だと思います。長年にわたって育まれた歴史と文化をブラッシュアップして差別化していくしかないと思います。移住促進は一時的な効果しかないと考えており、関係人口・交流人口の強化が最も効果があると思っています。財政運営についても考えていただくことと併せて答申書における付帯意見として検討いただきたいと思います。
○会長	総合計画なので様々な分野に必要な取組を網羅的に検討していくなかで、どこかを削るというのは難しいことだとは思いますが、ただし、取組の重点化・優先順位付けを検討するなどのほか、財政における歳入に寄与する手段の検討などは必要と理解いたしました。 関係人口については「人の魅力」が大きいと最近感じているところです。何でも訪れる理由として「魅力的な人に会いに行く」という要因も大きいと考えています。歴史や文化とあわせて人の魅力も発信することも重要だと思います。
○副会長	全国的に再開発事業が盛んに行われていますが、成功すればよいですが失敗のリスクも大きいのが現実です。先行きが不安定な世の中においてはそのリスクはさらに大きくなると考えています。 中心市街地の活性化を例に挙げると、再開発を行うよりも既存商店街を再生させるほうがコスト的にも安価でありリスクも小さいと

○会長	思います。時間はかかりましたが七日町も徐々に再生されている状況であり、全国的にも注目されて視察も増えています。 皆さまご意見ありがとうございました。「①素案についての評価、肯定的に評価できる点」と「②計画推進にあたり、市に対し、配慮を求める視点や考え方など」の2つを整理したいと思います。 「①素案についての評価、肯定的に評価できる点」については、人口減少に真正面から向き合った計画になっている点、政策を連携しながら一つのテーマに繋がるアプローチ（集学的なアプローチ）、女性や若者に選ばれるまちづくりを打ち出した点などがありました。 「②計画推進にあたり、市に対し、配慮を求める視点や考え方など」については、市民への情報提供のあり方や、市と市民のコミュニケーションのあり方、多世代交流「お互い様」の考え方（多世代間の互惠的利他行動）、先進的な取組の市内・市外へ発信、今後の財政運営の検討、新たなまちづくりのあり方などが意見されました。 詳細は事務局のほうでとりまとめていただくようお願いいたします。
○副会長	全国的にも「ローカルファースト」という地方都市を優先する考え方が最近出てきています。ローカルファーストを実践する自治体もいくつか出てきているので参考にしてもよいかと思います。
○会長	ありがとうございました。キーワードとしても参考にさせていただければと思います。
○委員	伝統工芸に従事する方から「漆器などは市民の方が利用する機会が減っている」という声が聞かれています。シビックプライドの観点からも市民がまずは愛さなければ外部に良さを伝えられないと思います。そのような視点も入れていただくと良いと思います。例えば喜多方市では学校給食で伝統工芸の漆器を取り入れています。
○会長	ありがとうございました。ローカルファーストとも通じる意見と感じました。
○委員	皆さんの意見を聞いて、どうやって会津若松の経済を潤すかと考

	えたときに、シティプロモーションとしての売り込み方は重要だと思います。郡山市は「音楽都市こおりやま」「楽都郡山」を標榜していますが、会津若松市も例えば「酒の都」として「酒都（しゅと）」などの売り込み方、見せ方の工夫が必要だと思います。日本酒は有名ですが市内でウォッカやワインなど様々なお酒が生産されています。お酒とあわせる漆器、食べ物など日本酒だけにこだわらない売り込み方をすることで全国・海外からの誘客につながり、関係人口の増加も期待できると思います。
○委員	過去にアメリカ人とオーストラリア人の方をホームステイで受け入れていたが、非常に会津の歴史や伝統、文化を気に入っていただき再訪されるケースがあります。京都は外国人に圧倒的な人気がありますが、京都は広すぎるが会津はちょうどいい大きさに様々な歴史や文化を学ぶことができるという声もあるようです。
○会長	ありがとうございました。会津若松らしさを掘り下げていくのも非常に面白いと感じました。
○会長	(3)その他 最後にその他ですが、委員の皆さんから何かございますでしょうか。事務局からいかがでしょうか。
●事務局	(次回審議会の開催予定)
○会長	その他、何かありますか。 ないようでしたら、以上で議事を終了いたします。これをもって議長の任を解かせていただきます。委員の皆様、ご協力ありがとうございました。

4. 閉会